



園だより

9月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和8年9月1日発行

「Kindergarten (子どもの庭)」

園長 佐藤 淳穂

夏休みに入ると、ヒマワリの花が咲き始めました。種をまいた子どもたちと一緒に青空に向かう大輪を見上げることができないことが残念でなりません。せめて写真に収めておこうとカメラを構えました。すると、バサバサっと赤いくちばしの鳥が飛んできてヒマワリの花に留まりました。ワカケホンセイインコです。美しい鳥と鮮やかなヒマワリという構図にファインダーを覗くと…なんと、インコはまだ膨らんでもいないヒマワリの種をとがったくちばしでつついて食べていたのです。インコはドングリの木の上で仲間を集めています。私たちは、大きな防鳥ネットでヒマワリ畑をすっぽりと囲うことにしました。

自分たちでまいた種が芽を出し、長い時間をかけて咲いた花から新しい種を採る…この体験で、ヒマワリの花や茎の硬さに出会ったり命の循環を感じたりするでしょう。ぎゅうぎゅうに詰まっている種を取り出すのも楽しみです。なんとしてもヒマワリを守らねばなりません。インコも私たちも自然の一部。共に真剣です。

東京大学名誉教授の汐見稔幸氏は講演会で「ネット社会でなんでもわかった気がしてしまうが、実際の体験では、危険を感じたら胃の分泌物が出たり鳥肌が立ったりして脳がコントロールして体を守ろうとする。物事に出会う度に体の中のいろいろな器官が同時に反応して命の機能が豊かになっていく。」と話していました。つまり、物事は体全体でわかるのであって、体験が減ることは人間の生きる力が弱くなることを意味しているということです。

「幼稚園」はドイツの教育学者フレーベルの「Kindergarten (キンダーガルテン)」の日本語訳です。「Kinder=子ども」「Garten=庭」つまり、「子どもの庭」が「幼稚園」というわけです。フレーベルの「子どもは自ら育つ力をもっている」「遊びは大切な学び」「自然や人との関わりを大切にする」という幼稚園の原点の思想に触れ、あらためて子どもたちの体験を重視した園づくりをしていきたいと思う、2学期の始まりです。

